

【報告事項 1】 2024（令和六）年度事業報告の件

1) 2024 年度国際会議開催

2024 年 12 月 4 日から 6 日の 3 日間、一般社団法人映像情報メディア学会（ITE）と The Society for Information Display（SID）の共同主催で、札幌コンベンションセンターにて第 31 回ディスプレイ国際ワークショップ（IDW '24）を開催した。キーノート講演としては、Jung H. Hah 博士（SK Materials Inc., CTO）より「革新的なディスプレイ材料のトータルソリューション」に関して、Uwe Vogel 博士（Fraunhofer Institute for Photonic Microsystems IPMS）より「高性能の眼鏡型ディスプレイのための半透明 CMOS バックプレーン技術」に関して、廣瀬通孝博士（東京大学名誉教授）より「VR・生成 AI・メタバースによる Society5.0 社会」に関して、Barry Silverstein 博士（Meta Platforms, Inc.）より「AR で AI の力を解き放つことによるディスプレイ技術の未来像」に関して、Uwe Vogel 博士（Fraunhofer Institute for Photonic Microsystems IPMS.）より「高性能の眼鏡型ディスプレイのための半透明 CMOS バックプレーン技術」に関しての講演をいただいた。さらに、生成 AI に関するスペシャルセッションとして、「生成 AI による画像・映像生成の進化」をテーマに、「自動車」、「サイバーフィジカルシステム」、「画像生成」、「3D イメージング」といった分野の専門家が、生成 AI がディスプレイ技術に与える影響と、その将来性について深い洞察を示した。Poster Session は Oral Session と並行して行うことにより、部屋の使用効率の向上を図った。実際に技術を体験できるデモセッション（I-DEMO）を拡大し、論文発表を行わない発表者からのデモも行われ、会期中毎日開催された。今年新たに開催された I⁴D Contest では、高等専門学校の学生たちで構成される 10 チームが独自のデモを発表し、その創造性と技術力を競い合った。企業・大学展示も Poster、I-DEMO と同じ会場で開催され盛況であった。初日の夜には、「Display Night」と題した参加者と講演者が懇親できる時間を設けた講演会が、華為技術日本株式会社の協賛として法人への寄付金を通じて行われた。OLED 材料の性質について Jun Yeob Lee 博士（Sungkyunkwan University 教授）、Backplane 技術について Norbert Fruehauf 博士（University of Stuttgart 教授）から御講演をいただいた。

発表論文数は、キーノート講演を含め全体で 504 件（昨年 436 件）と昨年より 68 件増加し、参加者数も 1,153 名（昨年 1,042 名）と昨年より 111 名増加した。開催費用は、66,482,143 円であった。

2) 記念事業

・ Kobayashi-Uchiike-Mikoshiba Prize

Prof. Norihisa Kobayashi と Prof. Shiro Suyama と Dr. Masaki Hasegawa の 3 名の受賞者を選定、および IDW '24 オープニングでの表彰を行った。

3) 中長期的検討

2024 年度は、以下の通り中長期計画検討委員会を開催した。

7 月 19 日：

学会誌論文推薦先として IEEE OJ-ID に投稿推薦を行うかについて検討

11 月 19 日：

IDW '26 開催地を決定（浜松）

IDW '26 三役検討

二重投稿について WS へ実態調査を行うことが決定

SID 日本支部との協力体制について確認

中長期的な財務運営について確認

4) 会員関連

i) 賛助会員

2024 年度における賛助会員数の推移は次の通り。

- ・ 2014 年度の賛助会員数: 8 社
- ・ 2015 年度の賛助会員数: 7 社
- ・ 2016 年度の賛助会員数: 8 社
- ・ 2017 年度の賛助会員数: 8 社
- ・ 2018 年度の賛助会員数: 8 社
- ・ 2019 年度の賛助会員数: 8 社
- ・ 2020 年度の賛助会員数: 9 社
- ・ 2021 年度の賛助会員数: 9 社
- ・ 2022 年度の賛助会員数: 8 社
- ・ 2023 年度の賛助会員数: 8 社
- ・ 2024 年度の賛助会員数: 8 社

ii) 社員

2024 年度における社員数の推移は次の通り。

- ・ 2024 年 4 月での社員数: 60 名
- ・ 2024 年度の増減: 入社: 1 名、退社: 0 名
- ・ 2025 年 4 月 17 日現在の社員数: 61 名

iii) 準社員

2024 年度における準社員数の推移は次の通り。

- ・ 2024 年 4 月での準社員数: 5 名
- ・ 2024 年度の増減: 増: 0 名、減: 1 名
- ・ 2025 年 4 月 17 日現在の準社員数: 4 名

5) 財務関連

- ・ 国際会議開催事業運営給付金
当初、助成を想定していなかった。しかし、今年度より、賛助会員費を国際会議開催事業の運営給付金として支給する事が、IDW 実行委員会と法人理事会の間で合意され、180 万円を給付した。
- ・ 国際会議イベント事業
国際会議ナイトセッション「Display Night」開催等に係る業務は、今年度より、IDW 実行委員会に業務委託する事が、IDW 実行委員会と法人理事会の間で合意された。IDW '24 会期前日に開催した飲食を含む事業「Get-together」懇親会費を拠出した。
- ・ 寄付金
華為技術日本株式会社より、国際会議に用途を指定した寄付金 5,316,600 円を受領した。この全額を国際会議イベント事業の Display Night 開催事業の業務委託費として、IDW 実行委員会へ支給した。
- ・ IDW '24 開催余剰金
IDW '24 実行委員会より、IDW '24 開催余剰金 8,346,951 円が、ディスプレイ国際ワークショップ運営給付金として当法人に支払われ、継続的な IDW 運営のために使用される。

以上